

【研究論文】

教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅰ） ～本学における取組の実際～

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐伯 育郎

初等教育学科 教授 徳本 達夫

はじめに

小文は、地方の小規模私立女子大学における教員採用選考試験対策の一環として筆者たちが担当してきた集団討論セミナー講座の実際について、教師教育および大学教育の視点からその意義と課題を示すものである。これによって、教職課程教育および大学教育の説明責任についての一つの見解を示すことができるであろう。

（Ⅰ）においては、本学における教職課程教育の発展的関連的取り組みの一つとしての教員採用選考試験のうち集団討論に関する取り組みについて、その意義と実際、受講学生の感想等を絡めて論じ、その意義と課題を明らかにする。（Ⅱ）では、今後の課題も含めつつ、周辺事項についての検討課題を明らかにすることを通して、大学教育、わけても教職課程教育の質と量とを本学学生に対する進路保障にどう繋ぐかを明らかにする。

今般のOECD国際教員指導環境調査（TALIS2013）によって、日本の学校教員の多忙さが改めて浮き彫りになった。日本の義務教育諸学校の教員の卓越性は世界的に評価されてきた。しかし、各種調査結果から明らかのように、昨今の学校現場の、主に事務的業務増加に伴う勤務の多忙化は、こうした卓越性を伸ばす方向ではなく、逆に減ずる方向で動いている。先のOECD調査はこれを公的に示したものである。

教員をめぐるこのような困難な状況にあって、教職を目指す学生に関わる大学教員として、教師教育の最初の段階である養成教育の時点でどのような資質能力を持った学生を育てるかは、長期的な視点から社会的な説明責任を求められることである。「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年中央教育審議会答申）は、「学び続ける教員像」を今後の教員養成の方向性として示した。本来、専門職である教職従事者にとって、学び続けることは自律的な専門職として当然のことである。このような自律的専門職の資質能力の向上のための制度的条件整備はどこまで出来ているのか。多忙な教職現場の問題点を学生自身の問題とすることは課題解決の第一歩となる。

本報告は、こうした基本的な立場を意識しながら現実的な教員採用選考試験に向けて学び続ける学生を励まし、支え続けてきた本学の取り組みの一端を、集団討論という窓口から明らかにし、最終的には「学び続ける教員像」を学生と共に大学教員も共有することをめざすものである。

以下、養成教育の基本原則と集団討論セミナーの実際について、経緯と現状・課題を記し、集団討論という視点から本学の養成教育の見直しのための叩き台を示す。この問題は、個別の地方私学の問題にとどまらず、現職教育を視野に入れた養成教育における教育内容と方法に関する問題提起の意味合いを持つものと思われる。学生をはじめ、関係各位の忌憚のないご批正を賜りたい。なお、執筆は筆者らが共同討議を重ねるなかで為されたが、文責は各末尾に記した通りである。（徳本）

1 集団討論セミナーで目指しているもの

「はじめに」でも強調したように、教員採用選考試験対策が単独で実施されるのではない。教師教育における教職課程教育の関連・発展・応用としてのセミナー実施である。それゆえ、セミナーは、大学教育・教職課程教育の補充・深化・統合を目指す役割も果たしている。それぞれが有機的に相互に繋がり、総合的に展開されてはじめて意味あるセミナーになる。教員・受講学生はともに、合格を終着点（ゴール）とは思っていない。各自にとって実践的指導力の基礎を身につけて教職生活開始に最適な時期が合格の時期である。それゆえ学生は就職後の学級づくり・授業づくり、等を意識しながら受講している。合格者数を増やすために本人が希望しない複数受験を進めるということは論外のことである。

（１）教育実習担当者による連続性・一貫性

筆者らは集団討論セミナー担当であるとともに、本務として小学校教育実習指導を担当している。教育実習Ⅶ（観察実習）、教育実習Ⅰ（模擬授業）、教育実習Ⅱ・Ⅲ（本実習）の事前・事後学修の指導である。教育実習指導の成果と課題については、別途報告した¹⁾。セミナーの質は、各年度の振り返りと改善策によって年々向上している。教育実習等の指導の成果と課題を踏まえた継続的・発展的・段階的な指導を心している。専門科目授業での学生の課題に関しても復習という点で位置づけられる。個々の学生の実態を踏まえた対応も意識している。筆者らの各教科専門の立場から、教育実習指導を中核に据えた指導体制の振り返りと今後の課題についても別途報告した²⁾。

（２）「学び続ける教員像」の自覚

採用試験合格という近視眼的な位置づけは、教職課程教育が持つ社会的な責任を果たすことにはならない。全体の奉仕者としての意識を持った教師を育てることが前提である。その意味で学生が「学び続ける教員像」を自覚し、その方向で自己形成する方向で指導することを目指している。自分が関わった学生が自分たちと同業に就くことを励ますこと、「全体の奉仕者性」を自覚した学生を教育界に輩出したいという願いに支えられている。

（３）大学教員としての資質能力の向上

「学び続ける教員像」の自覚は、担当者にも必須のことである。対策講座に関わることは、模擬授業、場面指導、個人面接・集団面接等、すべて同業者である大学教員としての自己の問い直しの機会である。集団討論も同様である。結果として、筆者らの大学教員としての資質能力の向上にも資している。担当授業の見直しも含めた実践である。学生の教員としての資質能力の向上の現場に立ち会うことの手応えを感じるものが原動力となっている。とりわけ教育界の動向をはじめ、時事問題についての意見交換を受験学生とともに楽しむ感覚が得られている。セミナーは、本学教員としての本来の業務として要求されているわけではない。篤農的な関わり方であるがゆえに、筆者ら自らの自律的な成長の原動力になっている。

（４）教師教育に関する研究への寄与

筆者らは、質の高い教師が育つための実践的な教師教育のあり方を研究主題の一つとしている。養成と採用とを繋ぐ採用試験の対策に関わるという位置は、養成と採用・研修という、教師の長期的な視点からの職能成長を踏まえた養成を要請する。筆者ら相互の研究進展にも寄与できる。いわば、生きた研究の素材と共にあるということである。教師教育における専門教育の位置と役割、教育実習指導の現状と課題、集団討論の意義と課題等の共同研究は、こうした副産物である。時間と精力の有効活用のための質の高いセミナー実施に繋がる仕組みを考えるためである。質の高いセミナーとは、理想的に言えば、対策講座を必要としない、大学教育・教職課程教育がそのまま対策講座をはるかに超えた質と量のものである。質の高い教職課程教育の追求は、未完のプロジェクトである。

（５）大学教育の時間的不足の補完

実際問題としては、大学教育の時間的不足を補う一環としてのセミナーでもある。授業では理論と

実践との往還的学習を意識して行なっているものの、正規の授業回数の中では体験的な学習のための時間が十全には確保できていないからである。原則は大学教育という本業があってこそそのセミナーである。最終的には、セミナーを別途開講しなくてもすむような授業の質と量が提供できる実践を理想として目指している。理論上は、対策講座を開講する必要がなくなった分、従来以上に質の高い授業を展開する責務が生じる。理論と実践の往還の具体的展開が課題となろう。

(6) 学生が自ら育つ体制

「学び続ける教員像」は、他者から与えられたものを吸収するといった受動的な教員像ではない。主体的に研究と修養を目指すという教員像である。それゆえ、担当教員側からの情報提示を待つのではなく、学生自身が共同して創り上げる感覚が育つように学生指導に関わっている。集団討論セミナーで言えば、集団討論の出題問題を10題以上、学生に考えさせる。また、2月の春期セミナーでは、受験側・評価側の双方を体験し、集団討論の評価の観点も考えさせ、学生で協議する場を設定した。受験者として評価される側とを捉えるのではなく、自分が採用側とすれば、どのような資質能力のある教員を求めるか。何を持って、どう評価するか。こうした一連のことがらへの主体的な関わりが実際に取り組む上での質の高さを生む。

セミナーに関わる教員は、学生が提示する出題案や評価の観点を超えたものを示すことが求められる。その点で、大学教員としての矜持と責任を痛感させられる。この姿勢は、学生が教員になった後も、教員が一方的に与える授業ではなく、子どもと共に創り上げるなかで専門家としての役割を果たす学習共同体づくりを実感できるようになることをねらっている。(徳本)

2 平成26年度・集団討論セミナーの実際

(1) 本学における教員採用試験に向けた取組

本学では、初等教育学科を中心として、学生からの要望に応える形で教員採用試験対策チャレンジセミナーを行っている。実施する時期によって春期セミナー、前期セミナー、二次試験対策セミナーの3種に大別できる。それぞれは教員採用試験の内容に準じており、各教科領域の学習指導要領解説などの筆記試験対策、論作文、学習指導案作成、グループワーク、面接、模擬授業、音楽・体育・図画工作の実技対策など、多岐にわたる。正規の授業ではなく、課外で行われる自由参加型のセミナーであり、学生の要望に答える形で本学教員によって開催されることを特徴としており、学生の主体的な学びを支援するものである。

【教員採用試験対策チャレンジセミナーの特徴】

- ① 学生の自主学習会とタイアップし、それを支えるために実施するセミナーであり、本学の教職課程教育を補充・深化・統合する場としても位置付けている。
- ② 初等教育学科の専任教員全員による支援体制が基本であり、それぞれの専門性を生かしつつ、課外を利用してボランティアでサポートを行う。
- ③ 個々の学びの履歴、特性といった学生の実態を踏まえた上での指導、専任教員による進路保障の一環を目指している。

以下、平成26年実施の春期セミナー、前期セミナー、二次試験対策セミナーを通じた集団討論セミナーの実際について報告し、教師教育の養成課程における集団討論の意義と実際について考察する。

(2) 集団討論セミナーの実施状況

教員採用試験では、集団討論（集団討議・集団協議・グループ討議）を課す自治体があるため、本学のセミナーにおいても集団討論対策を行っている。平成26年度の集団討論セミナーの実施状況は、表1の通りである。春期セミナーから二次試験対策セミナーまで、全40回実施した。参加者は、最多

で54人、最少で4人、平均17人であった。前期セミナーでは、受験自治体の決定によってメンバーの増減は落ち着き、小学校教員採用試験を受験する初等教育学科・児童教育コースの4年生を中心として平均14人の参加があった³⁾。

1回90分のセミナーにつき、2つの問題に取り組む。集団討論の出題例は、A.教職専門、B.教育時事、C.時事の3種に大別できる。A.教職専門には学級経営のあり方や家庭学習の推進についてなどの問題があり、B.教育時事には道徳の教科化や全国学力調査の結果についてなどの問題があり、C.時事にはエネルギー政策やヘイトスピーチについてなどの問題がある。今年度は、A.教職専門7問、B.教育時事21問、C.時事12問を出題した。教育時事が最も多く、教職専門が最も少なかった。

回数	日付	テーマ	分類	出題者	参加者数	参加教員	方法	会場	形式	期間
1	2.25(火)	中教審「家庭生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」(H24.8.28)という文書がある。下線部について、大学時代に身に付けておくべき教員としての資質能力とは何か、教職を目指す人として討論せよ。	B.教育時事	徳本	54	徳本・佐伯	30分討論・5～6人班・模範例有り	242	対面式	前期
2	2.25(火)	2016年の学校教育法改正により、義務教育期間における学力域として、思考力・判断力・表現力が重視されることとなった。この背景を踏まえ、学級担任としてどのように取り組むか、討論せよ。	B.教育時事	徳本	54	徳本・佐伯	30分討論・5～6人班・模範例有り	242	対面式	
3	2.26(水)	日本の子ども・若者は、諸外国の子ども・若者に比べて自己肯定感が低いという調査がある。この実態の背景・理由を踏まえ、学級担任としてどう対応するか、討論せよ。(※資料提示)	B.教育時事	徳本	35	徳本・佐伯	30分討論・5～7人班・模範例有り	242	対面式	
4	2.26(水)	災害から身を守る安全教育が実施されている。その中で、避難3原則を踏まえた取り組みが成果をあげている。学級担任として、平常から下線部を充実させた安全教育にどう取り組むか、討論せよ。	B.教育時事	徳本	35	徳本・佐伯	30分討論・5～7人班・模範例有り	242	対面式	
5	2.28(金)	家庭学習の充実に向けて、学級担任としてどのように取り組むか、討論せよ。	A.教職専門	学生	36	徳本・佐伯	30分討論・6人(教員2人参加による役割)	242	対面式	
6	2.28(金)	「行くさなの体験」をする子、字もは学びに対して積極的になるという調査結果がある。このことについて討論せよ。(※資料提示)	B.教育時事	徳本	36	徳本・佐伯	3分構想・30分討論・5～6人班	242	対面式	
7	4.21(月)	道徳授業を教科に格上げする案が、文科省教育で進んでいる。この背景を踏まえ、道徳授業を担当する学級担任としてどのように対応するべきか、討論せよ。	B.教育時事	徳本	29	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5人班	242	対面式	
8	4.21(月)	持続可能な社会に必要なエネルギー政策のあり方について、これまでのエネルギー政策を踏まえ討論せよ。	C.時事	徳本	29	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5人班	242	対面式	
9	4.28(月)	改訂教育基本法に明記された「伝統・文化の尊重」を、自らの教育実践にどう取り上げるか討論せよ。	B.教育時事	徳本	23	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5人班	242	対面式	
10	4.28(月)	あるサッカーゲームで、サポーターが掲げた「Japanese Only」の垂れ幕に見られる現象の背景と、その対応策・防止策について討論せよ。	C.時事	徳本	23	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5人班	242	対面式	
11	5.8(木)	学習指導要領生徒指導は、教員にいて一体として捉えることが必要である。従来、この2つは車の両輪に例えられていた。なぜ一体として捉えることが必要なのか、どのように実践していくか、教職を目指す者として討論せよ。	A.教職専門	徳本	12	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・4人班	242	対面式	前期
12	5.8(木)	10枚教育や電子書籍などに見られるように10枚が教育や生活に導入されてきた。「便利さ」を生きている子どもに、その限界を自覚させつつ、積極的に活用するにどうしたらよいのか、討論せよ。	B.教育時事	徳本	12	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・6人班	242	対面式	
13	5.12(月)	選別、いじめ、塾めなど、様々な問題行動を起こす児童に対して、生徒指導の観点から学校・学級担任としてどう対応するか。	A.教職専門	徳本	17	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5～6人班	242	対面式	
14	5.12(月)	少子高齢化時代の子育て、教育について論じなさい。	B.教育時事	徳本	17	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5～6人班	242	対面式	
15	5.19(月)	オリンピックやワールドカップ等の国際試合を国家間の競争ではなく、人類の相互理解の機会にするにはどうしたらよいのか。	C.時事	徳本	16	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5～6人班	242	対面式	
16	5.19(月)	よりよい学級づくり、学校づくりにつながる教科外活動(合唱祭、運動会、生活発表会、学校行事等)のあり方について討論せよ。	A.教職専門	徳本	16	徳本・佐伯	5分構想・30分討論・5～6人班	242	対面式	
17	5.26(月)	教育や授業が成立する前提条件として、児童・生徒理解がある。5つのポイントを挙げ、教育や授業にどうつなぐか。	A.教職専門	徳本	8	徳本・佐伯	5分構想・20分プレゼン・20分討論・8人班	242	対面式	
18	5.26(月)	自然災害において「災害弱者」を生まないための方策について討論しなさい。	C.時事	徳本	8	徳本・佐伯	5分構想・20分プレゼン・20分討論・8人班	242	対面式	
19	6.2(月)	全国学力調査の結果、家庭の経済格差と学力の間に一定の相関関係があることが判明した。このことを通って教員としてどう対応していくか。	B.教育時事	徳本	8	徳本	5分構想・20分討論・5人班	242	対面式	
20	6.2(月)	食品偽造事件が起きる中、食の大切さを実感できる教育のあり方について討論せよ。	B.教育時事	徳本	8	徳本	5分構想・20分討論・8人班	242	対面式	
21	6.9(月)	科学探究の客観性について、自分の卒業研究を振り返り、討論せよ。	C.時事	徳本	9	徳本・佐伯	5分構想・20分討論・9人班	242	対面式	前期
22	6.9(月)	学力は群れの中で育つという。なぜか、どのような実践が必要か、教職を目指す者として、また学級担任を担う者として討論せよ。	A.教職専門	徳本	9	徳本・佐伯	5分構想・20分討論・9人班	242	対面式	
23	6.16(月)	将来、具体的に読みたい職業を持っている子どもの割合が少なくなっているといわれている。将来への夢や希望を育むために、学校教育はどのようなことに力を入れるべきか、討論せよ。	B.教育時事	佐伯	12	佐伯	5分構想・30分討論・6人班	242	対面式	
24	6.16(月)	アルパカによる食害の被害。問題行動をツイッターなどに投稿し、結果その運営企業が謝罪に追い込まれる問題が生じている。短時間で広範囲に影響を及ぼすネットに関する社会問題について、どのように考えるか討論せよ。	C.時事	佐伯	12	佐伯	5分構想・20分討論・6人班	242	一列式	
25	6.23(月)	失敗を恐れる子どもが増えている。この背景と対策について、学級担任としてどう考え、取り組むか討論せよ。	B.教育時事	徳本	15	徳本・佐伯	5分構想・20分討論・7～8人班	242	一列式	
26	6.23(月)	日本における障害のある児童・生徒の教育は近年大きく転換した。どのような背景の元、どのように転換したのか、通学学級の担任としてどう取り組むか、討論せよ。	B.教育時事	徳本	15	徳本・佐伯	5分構想・20分討論・7～8人班	242	対面式	
27	6.30(月)	OECDの調査結果(他国と比べて日本の教員が多忙であるとするデータ)を元に、その問題点を明らかにするとともに、どうすればよりよい方向に改善できるか討論せよ。	B.教育時事	徳本	11	徳本・佐伯	構想なし・20分討論・5～6人班	242	対面式	
28	6.30(月)	この度、富岡製糸工場がユネスコ世界文化遺産に登録された。世界文化・自然・記憶遺産を教育にどう生かすか、教職を目指す者として討論せよ。	B.教育時事	徳本	11	徳本・佐伯	構想なし・20分討論・5人班	242	対面式	
29	7.7(月)	義務教育制度の改革により、小中一貫校の創設が提議されている。その利点を踏まえ、実施上の課題について討論せよ。	B.教育時事	徳本	12	徳本・佐伯	構想なし・20分討論・6人班	242	対面式	
30	7.7(月)	議事等で女性議員の発言に対して男性議員が「ヤジ発言」を飛ばしている状況がある。この問題の背景を踏まえ、教職を目指す者としてどう考え、実践するか討論せよ。	C.時事	徳本	12	徳本・佐伯	構想なし・20分討論・6人班	242	対面式	二次 対策
31	7.14(月)	ワールドカップ2014年はドイツが優勝した。個の力と、個の力を活かす組織力の方が優れている結果である。このことを学校にどう活かすか、討論せよ。	C.時事	徳本	12	徳本・佐伯	構想なし・20分討論・6人班	242	対面式	
32	7.14(月)	家庭・学校・地域の協力・連携を進めることが重要である。例えば、「モンスターペアレント」といった課題を抱えた地域等とどのように協力・連携を図っていくか、討論せよ。	A.教職専門	徳本	12	徳本・佐伯	構想なし・20分討論・6人班	242	対面式	
33	8.25(火)	学校で学んだことが役に立たず、企業では独自に新人研修等を行っている。学校での学びが、社会や職場で活用できないのはなぜか。それをどのように克服していくか、具体策を述べよ。	B.教育時事	徳本	4	徳本・佐伯	構想5分・25分討論・5人班(教員1人含む)	242	対面式	
34	8.25(火)	各県調査によれば、日本の青年は自己肯定感が低いという。この背景を踏まえ、学級担任としてどう対応するか討論せよ。	B.教育時事	徳本	4	徳本・佐伯	構想5分・25分討論・5人班	242	対面式	
35	9.10(木)	アメリカでバスケやフットボールは、ALの認知度向上や寄付金の増加に貢献している。一方で、有名人の売名や企業等の宣伝に過ぎないという批判もある。奇抜なパフォーマンスを競い、中には事故を招いた事例もある。このことについて、どう考えるか討論せよ。	C.時事	佐伯	6	佐伯	構想10分・40分討論・6人班	262	対面式	
36	9.16(火)	埼玉県の市町村にある女子学生が、何者かに誘われて誘われていた。女子生徒の自校に引かれて転校したらしいと見られる。同様の経緯で文句を言われることはあったが、暴力を振るわれる事はなかったとおびえているという。このことについて、あなたはどう考えるか討論せよ。	C.時事	佐伯	6	佐伯	構想10分・40分討論・6人班	262	対面式	
37	9.18(火)	厚生労働省は、監視カメラと「危険ドラッグ」という新呼称を決定した。しかし、「危険ドラッグ」に関する事件・事故は後を絶たないのが現状である。このことについて、あなたはどう考えるか討論せよ。	C.時事	佐伯	6	佐伯	構想10分・40分討論・6人班	262	対面式	
38	10.16(木)	神機児童に関する現状と、問題を解決する取り組みについて討論せよ。	B.教育時事	佐伯	6	佐伯	構想10分・40分討論・6人班	262	対面式	
39	10.16(木)	徳島市の魅力をアピールする取り組みについて討論せよ。	C.時事	佐伯	6	佐伯	構想10分・40分討論・6人班	262	対面式	
40	10.27(月)	教育・保育に関する問題・課題にはどのようなものがあるか。特に松山市の問題・課題を解決するために、今後どのような取り組みが必要か、討論せよ。	B.教育時事	佐伯	6	佐伯	構想10分・50分討論・6人班	135	対面式	

【表1：平成26年度集団討論セミナー・集団討論主題一覧】

(3) 集団討論セミナーの進め方

筆者ら担当教員が指定した人数のグループで着席し、提示した問題を学生が各自の用紙にメモする。問題は、B3サイズ程度の用紙にあらかじめ手書きしたものを提示する場合と、その場で板書する場合がある。グラフや新聞記事など、問題に関連したデータをコピーして配付することもある。学生が問題をメモした後、指定された時間内で討論を行う。集団討論セミナーでの討論の時間は、20分から30分が最も多い。実際、教員採用試験における集団討論は30分から60分くらいが多いようである。討論終了後、グループ毎に協議をすることで振り返りを行い、その後筆者らからコメントするという流れである。筆者らは、討論を観察しながら記録を取り、自らのコメントに生かす(資料1)。問題によって、その都度グループのメンバーを入れ換える。グループの固定化によって学生間で慣れが生じるのを防ぐためである。集団討論セミナー終了時には、その日に取り組んだ問題について再度調べ直し、小論文にまとめておくよう学生に促している。セミナーで取り組んだ問題がたとえ集団討論では出なくても、筆記試験、小論文や面接など別の試験で出題されることもあり得るからである。将来的には、採用後にも役立つはずである。単に試験対策に留まらず、集団討論セミナーでの学びは教職に関する専門性を強化することにも繋がる。

[illegible]

【資料2：受験側と評価側に分かれて行う春期
セミナーでの集団討論】

春期セミナーでは、評価の観点について主体的・客観的に考えさせるため、受験側と評価側に分かれて討論を行った（資料2）。1回討論が終われば、受験側と評価側とを交代し、双方を体験させるようにした。学生は、自身が考えた討論の問題、評価の観点、討論・協議後の振り返りを記述し、A4サイズ1枚程度のレポートにまとめて教員に提出する（資料3・4）。筆者らがあらかじめ伝えていなくても、学生たちは問題や評価の観点を自ら考えることができています。評価側を体験することで、受験側としての自分

を省察することにもつながる。筆者らがレポートをチェックし、学生の学習状況を確認した後、次の討論開始前に返却した。

- ・〈集団討論で人物を評価する視点が重要〉
- ・自分の信念や意見を言うこと
- ・その考えが経験や一般論などに基いていること
- ・何について話しているのかを明確にし、話題を修正したり、話題に沿って話したりする
- ・相手の意見や考えをよく聞き、それを踏まえて述べる
- ・具体や理由、根拠を明確にする
- ・意欲や態度、姿勢
- ・根拠として適切なワードを使用している

見方、判断力、表現力について、情報提供とどのように40%相対的か
(この背景をいふこと) → それを重視する

- ・〈採点する視点が討論で生かせるかどうか〉
- ・同様に相手の話をよく聞き、それに基づいて自分の考えを述べることはできても、その根拠となるワードや意見が明確に相手に伝わることは難しいと感じる
- ・相手の話の論点の中心を捉えることが難しく、手とめる力が自分には足りないと感じた
- ・議題について相手の話を意欲的に聞き、積極的に発言する姿勢・能力をいかに高めることができた

共同討論 舟よ！ていーマ

1. 学習環境のいじの問題に教師がどのようにするか。
2. 児童の造字能力について。
3. 教職員間の連携について。
4. 学校と地域との連携のあり方について。
5. 道徳を教科化することについて。
6. 小規模学校と大規模校における教育について共通点の討ち、問題点の討ち。
7. 英語学習を義務化するために教師として（2校学校単位）どのように取り組むか。必要。

1. 必要だと感じたこと（討論結果より）

1. 必要だと感じたことをどのように明確に伝える
2. 他人の考えを会話の中で述べていくことが大切。もし間違っていたら「あー」
3. 自分自身から「造字」をどう伝えるのかについて。
4. 相手の態度や表情を見ながら話して伝えること。
5. 相手の話をよく聴くこと。
6. 教育時間と時間外のこと。
7. 他人の話をよく聴くことが大切。そして、自分の考えを伝えることが大切。

2. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。

1. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。
2. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。
3. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。
4. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。
5. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。
6. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。
7. 共同討論にどのような方法で（知識・スキル）を学ぶことはできるか。

共同討論の結果（共同討論の結果）

1. 共同討論の結果（共同討論の結果）
2. 共同討論の結果（共同討論の結果）
3. 共同討論の結果（共同討論の結果）
4. 共同討論の結果（共同討論の結果）
5. 共同討論の結果（共同討論の結果）
6. 共同討論の結果（共同討論の結果）
7. 共同討論の結果（共同討論の結果）

【資料3・4：春期セミナーでの学生のレポート】

春期セミナーの5回目の討論では、筆者らが学生グループの中に入り、実施した。討論の進め方を間接的に学ばせることをねらい、教員が参加することによって示範した。評価側の学生は、筆者ら教員も含めたグループを観察・評価するのである。筆者らも、数回以上、受験側も体験している⁴⁾。

【集団討論の基本的・理想的な進め方】

- ① メンバー全員で問題を確認し、討論の進め方・流れ、司会（進行役）を決める。
- ② どのようなことが問題として挙がっているのか、実際の様子・現状について話し合う。
- ③ なぜ問題になっているのか、その原因・背景・理由について話し合う。
- ④ 現状・背景を踏まえ、どのように対処していくべきか、実践・対策・解決策について話し合う。
- ⑤ 討論のまとめ・総括を行う。代表者がまとめを述べた後、他者から補足をする。
- ⑥ 時間が余っている場合は、1人ずつ討論の感想を述べる。

集団討論セミナーでは、①の前に構想の時間（3～5分間）が入る場合が多い。①と②の間に、メンバー全員が短時間でプレゼンテーション（発表）を行い、それを踏まえて討論をする場合もある。プレゼンテーションの際、口頭で行うだけでなく、1枚のプレゼン・シートに考えを文や図などにまとめ、それを提示しながら発表する場合もある。

集団討論セミナーに参加するまでは、持論の正当性を主張し、相手の意見を論破することが討論だと思っている学生もいる。1つの問題について異なる意見・立場に分かれて行うディベートと混同している学生もいる。集団討論はディベートではなくディスカッションであり、グループで1つの問題について建設的に話し合い、一定の結論を導き、総意を目指すものである。勝敗を競うものではなく、例えるなら1つの作品を協働で生み出す感覚に近い。苦野一徳がいう「相互承認の感度」に基づいた「共通了解」を見出す経験であろう⁵⁾。

（４） 集団討論セミナーによって身に付く力・評価の観点

筆者らは、集団討論セミナーによって学生に身に付く力・評価の観点を、次のように考えている。今年度は、評価の観点を学生に直接示すことはなかったが、この8つの観点を念頭に置き、学生の指導・支援に当たっている。

【集団討論セミナーによって学生に身に付く力・評価の観点】

- ① 協調性（全員参加の精神、他者への気配り、つながりとする意識、必要なフォロー）
- ② 積極性（発言回数、司会・進行に関わる、リーダー性、他者に対するコメント）
- ③ 貢献度（流れに沿った発言、軌道修正をする、発展を促す）
- ④ 判断力（偏見がなく安定している、適切な提案、沈黙の打破）
- ⑤ 論理性（客観性、根拠・理由のある発言、討論の内容をまとめる力）
- ⑥ 専門性（自身の体験談、実習校での実践例、授業・文献から得た学びのキーワード）
- ⑦ 省察性（討論中の振り返り、学生相互に討論を見合って評価の観点を自ら考えた）
- ⑧ 表現力（笑顔、目線、姿勢、所作、話し方、聞き方、うなずき）

大分県教育委員会では、公立学校教員採用選考試験の第3次試験において集団討論を実施している。大分県では、面接Ⅰ（集団面接・集団討論）の評価について、受験者に対して次のように公表している（資料5）。日本体育大学教養・教職科教授・本間啓二は、教員採用試験対策用の参考書において、集団討論の評価項目として次の4点を示している（資料6）⁶⁾。

平成26年度大分県公立学校教員採用選考試験第3次試験
面接Ⅰ（集団面接・集団討論）の評価について

- 1 評価は面接委員（4名）が個別に行う。
- 2 配点は受験者一人当たり150点満点とする。
- 3 各面接委員の持ちは25点とし、集計時に、面接委員4人の得点を加え、1.5倍する。
- 4 評価項目及び配点は次のとおりとする。

評価項目	具体的評価項目	配点
態度 表現力	○態度や身だしなみに好印象を受けるか。 ○言動・態度から人間性の豊かさを感じるか。 ○話が分かりやすく、的確に対応しているか。 ○話の内容に一貫性があるか。	5点
使命感 積極性	○教職に対して意欲・信念を持っているか。 ○児童生徒に対する愛情・理解があるか。 ○前向きな意見や考え方、向上心を持っているか。 ○教育に対する使命感やビジョンを持っているか。	5点
責任感 堅実性	○誠実で信頼できるか。 ○最後までやり遂げるタイプか。 ○教師としての責務をわきまえているか。 ○社会人としての一般常識を備えているか。	5点
創造力 柔軟性	○自ら課題を見付け、自分で考え行動できるか。 ○問題意識を持って物事を深く考えられるか。 ○経験や他者から学んだ事を生かそうとしているか。 ○広い視野を持ち、柔軟な発想ができるか。	5点
協調性 職場適応性	○組織の一員として協調してやっつけられるか。 ○考え方に独断的なところはないか。 ○ストレスに前向きに対応しているか。 ○うまく気持ちの切り替えができるか。	5点

- 5 評価は、次の5段階の5点満点とする。
5：特に優れている
4：十分満たしている
3：ほぼ満たしている
2：やや不足している
1：不足している
0：極めて不足している

【資料5：大分県教育委員会による集団討論の評価表】

集団討議評価表										
受験者		面接官								
評価項目	貢献度	適切な論点の提供	1	2	3	4	5	計		
		論点への適切な意見	1	2	3	4	5			
		課題解決に役立つ意見の提供	1	2	3	4	5			
		混乱した議論の整理・修正	1	2	3	4	5			
		議論をまとめる意見	1	2	3	4	5			
	協調性	自分の意見に固執しない	1	2	3	4	5	計		
		他人の意見を意欲的に聞く	1	2	3	4	5			
		他人の意見を積極的に認める	1	2	3	4	5			
	主導性	対立・攻撃を和らげる	1	2	3	4	5			
		グループの雰囲気を高める	1	2	3	4	5			
		進んで口火を切る	1	2	3	4	5	計		
		次の段階へと発展させる	1	2	3	4	5			
企画性	討議の進行に影響を与える	1	2	3	4	5				
	まとめる方向へと導く	1	2	3	4	5				
	全員参加へと他者を促す	1	2	3	4	5				
	討議進行に対する計画的な発言	1	2	3	4	5	計			
	一定の方向性を持った意見	1	2	3	4	5				
	制限時間を考えての発言	1	2	3	4	5				
	課題に対する全体構想	1	2	3	4	5				
	現実的・具体的な発言	1	2	3	4	5				
総合判定								合計		
A B C D -										
面接官のコメント：										

【資料6：本問啓二による集団討議評価表】

評価項目に関して、大分県と筆者らとの共通点は、①協調性、②積極性、⑧表現力の3点である。対人関係専門職（対人援助職）である教員にとってコミュニケーション能力が不可欠であることを強調している。相違点は、以下である。大分県には、職場適応性、堅実性が挙げられている。全体の奉仕者である公務員という側面、学校職員という組織人としての資質といった採用側の視点が感じられる項目である。

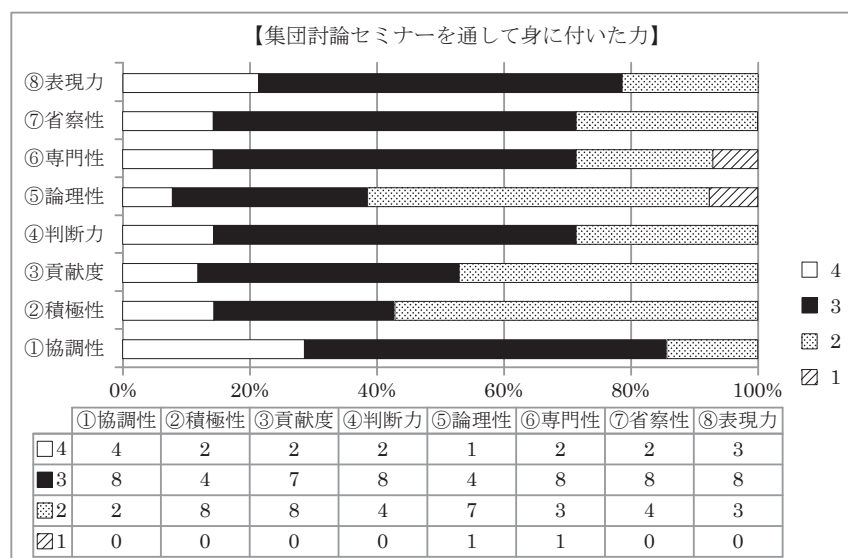
本問が挙げた主導性は、筆者らの②積極性と同様であり、貢献度、協調性とともに関与している。本問独自の項目には企画性がある。筆者ら独自の項目としては④判断力、⑤論理性、⑥専門性、⑦省察性、⑧表現力が挙げられる。本問が挙げた企画性とは、討議進行に対する計画的な発言、一定の方向性を持った意見、制限時間を考えての発言、議題に対する全体構想、現実的・具体的な発言である。

大分県や本問の評価項目と比較してみると、⑥専門性、⑦省察性は、筆者ら独自の観点である。養成側の意図が表れている項目である。単にコミュニケーション能力が高いだけでは、円滑には進行できるものの中身の浅い討論になってしまう危険性がある。専門性を生かして討論を深めていくこと、大学や教育実習などでの学びを生かして充実した討論をしていくことなど、教職の専門性を意識している。討論終了後、振り返りを毎回行うのは、省察的实践家としての教師を目指して欲しいという思いがあるからである。集団討論の評価項目に⑥専門性、⑦省察性が入っていないとするならば、それはグループワークの評価項目と変わらないだろう。本問が示す4項目は一般企業の試験などにも当てはまるものであり、人物評価をすることは可能だが、受験者の教職に関する資質・能力を判断・評価することは難しいのではないだろうか。グループワークでは、限られた時間内で同じ課題に取り組むことによって、作業性・効率性などを判断・評価することは可能であろう。しかし、受験者の人柄や専門性などは見えにくいのではないだろうか。集団討論では、問題は同一だが見解の相違が生まれることもあり、そこをどう克服していくかという点において専門性や省察性を含めた受験者の人間性が試されることになる。（佐伯）

3 平成26年度・集団討論セミナーの成果と課題

(1) 前期セミナー終了時の学生による評価

前期セミナーの最終回に当たる2014年7月14日（月）5コマ目の討論セミナーにおいて、自己評価シートⅠ（A3サイズ1枚の質問紙）の記述による調査を行った。調査対象は、討論セミナー参加者14人（9日以上参加者）である。



【グラフ1：集団討論セミナーを通して身に付いた力】

「1. 本セミナーを通して力がついたかどうか、以下の項目について4段階（高4～1低）で自己評価してください。」の結果をまとめると、グラフ1になる。集団討論を通して身に付いた力としては、①協調性、⑧表現力が最も高い結果となった。その理由には、次のような回答があった。以下、代表的な回答を抜粋する。

- ・他者の意見を尊重することや、「全員でいい討論をしていこう」とすることの大切さを学ぶことができた。
- ・笑顔やうなずきなど、話者の方を向いて話しやすい雰囲気になれるように努めました。何度もするうちに自信もつき、発言する機会を増やすことができました。
- ・話をしている相手の顔をきちんと見てうなずくことで、聞いているという意志も伝えることができたと思うし、「〇〇さんはどうですか？」などと発言の少ない人への気配りをするすることで、全員参加の討論をすることができた。

本学、とりわけ初等教育学科の学生は、普段からグループで学修する機会が多い。教員採用試験の取組だけでなく、教育実習などの取組においても協働性・同僚性を重視しており、その成果も反映された結果であろう。

最も低い結果となったのは、②積極性、⑤論理性であった。その理由には、次のような回答があった。

- ・自分に一番足りなかったのは、積極性だと思いました。どんどん手が挙がる中で、いつ発言すればよいかタイミングが難しいのですが、遠慮せずに自分の意見を出していきたいと思いました。
- ・分かる内容の時は少し積極的に話せたが、特に時事内容の時などは、1回話すので精一杯でなかなか話に入っていけなかった。
- ・つなごうとする意識は持っていたものの、やはり自分が先に考えた意見を言いたくて、話の流れを変えてしまうことが多々あった。

「3. 教員からのコメントは、自分たちの考えを深めることに役立ちましたか？ 適当なものに○を

付け、その理由も教えて下さい。」の結果は、4が86%、3が14%となった。その理由には、次のような回答があった。比較的、肯定的な回答が多かった。

- ・出された問題が根本的に聞きたいことは何なのか、どういう討論が望まれているのかが具体的に分かった。そして、他のグループに出た意見を聞くことで新たな発見があり、考えを深めることができた。また、討論を行う上での注意点やアドバイスなどもわかった。
- ・自分たちだけの討論や反省からは出なかった考えなどをコメントしてくださるので、とても参考になりました。自分がいた側だけではなく、他のグループから出た発言も教えて下さっていたので、共有することもできました。
- ・討論の理想的な進め方や、問題に関することがわかり、とても勉強になりました。討論中には出なかった意見や視点についても、後で先生が補足してくださったので、「次回、生かそう！」と思いました。

「4. 集団討論セミナー全体を通しての感想・意見・気付き・印象に残ったことを具体的に書いてください。授業を通して力が付いたと思うところ、勉強になったと思うところ、もっとこうした方がよいという改善点など、プラス面とマイナス面について遠慮なく記述してください。」の回答には、次のものがあつた。

【プラス面】

- ・私は、集団の中で発言するのがどちらかというと苦手なのですが、集団討論セミナーを通して、ある課題の解決や、取組をさらによりよいものにしていくためには、話し合いがとても大切なだということに気付きました。人の話をしっかり聞くことの必要性も、再確認できました。
- ・いろいろな意見を聞くことで、視野を広げることができた。自分の思ったことを人にわかりやすく伝える力や、他者への気の配り方、考える力も身に付いたと思うし、1回ごとにグループを変えることで、より多くの意見や考えを聞くことができ、とても勉強になった。実際の試験の時間や、隊形に合わせて練習できていたのでよかった。
- ・人数が多ければ多い程意見が飛び交い、新たな刺激が多かったため、人数は多い方がよかった。討論の話題は、時事的なものだったり、教育に関するものだったりしたため、多様性があり、勉強になった。

【マイナス面】

- ・毎日が習得でした。しかし、慣れてくると人が同じだとやはり“言いやすさ・話しやすさ”があるため、先生や先輩を交えたり、場所を変えたりしながら、新鮮味や緊張感が出るようにしたいと思いました。
- ・最後の方は人数も少なく、マンネリ化してきている部分もあったので、もう少し緊張感を持ってできる雰囲気を作りたいかった。
- ・春期のセミナーでは、集団討論が試験科目にない他県の人に参加してくれたが、前期が始まるとなかなか参加してもらえず、少人数でやるが多くなったのが残念です。また、私自身三次試験に集団討論があるため、一次試験が近くなると参加できず、申し訳なかったです。一次試験が終わると前期セミナーもなくなったので、できれば二次が終わると三次試験対策の人のためにもやってほしいと思います。

「5. 1～4年次にかけての教職に関する授業、教育実習などとのつながり（段階性・連続性）を意識することが出来ましたか？ 適当なものに○を付け、その理由も教えて下さい。」の結果は、4が57%、3が36%、2が7%となった。その理由には、次のような回答があつた。

- ・今までの学んできたことが、討論でも活かすことができ、また反対に討論での学びによって今までの授業や実習を振り返ることができました。これから活かしていきたいです。
- ・今まで勉強してきたことや、実習での体験などを踏まえて討論を行うことで、より具体的な意見を出すことができるようになり、またそういったことを聞くことで、自分の中にはなかった考え

も聞くことができた。専門的用語や、キーワードも思い出すことができた。

- ・座学から始まり、観察実習（2年次：教育実習Ⅶ）、模擬授業（3年次前期：教育実習Ⅰ）、本実習（3年次後期：教育実習Ⅶ）、そしてセミナーと、少しずつ現場に近付きながら学びを深めることができたと思います。良い点は「次も実行しよう!」、改善点は「次は心がけよう!」と自分で意識を高めながら、少しずつステップアップできた気がします。

「6. 担当教師、集団討論セミナーへの一言（※意見、質問、注文、批判、要望、苦情、忠告、伝言……など）があれば書いてください。今後の参考にします。」には、次のような回答があった。教員側から集団討論の進め方についての説明もなく、初回からいきなり実践に入ったことに対する抵抗は少なからず認められた。

- ・皆の意見や考えを知ることができてよかったです。集団討論は、その人が持っているものが出るし、人柄も分かってきます。皆のよい所をたくさん知ることができて、自分も見習いたいと思いました。ありがとうございました。
- ・もしできれば、他の先生からの意見をいただく機会があれば、さらに実りのあるものになるのではと感じた。
- ・集団討論はどのようにするのかなど、進め方を知らないまま、突然第1回目から集団討論をしたので、学んでから実践したかったととても思いました。

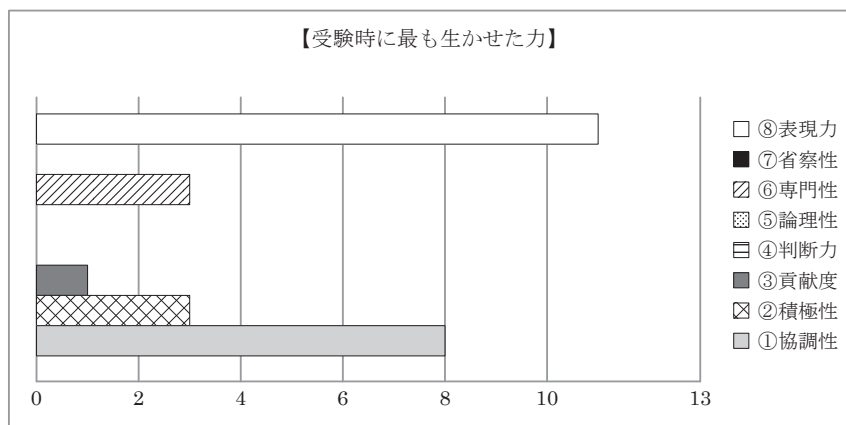
教員自身の人間性は、児童の人格形成に大きな影響を与えるものである。「その人が持っているものが出る」「人柄も分かる」という学生の回答から、人物評価をする上で集団討論の持つ重要性が表れている。

（2）教員採用試験受験後の学生による評価

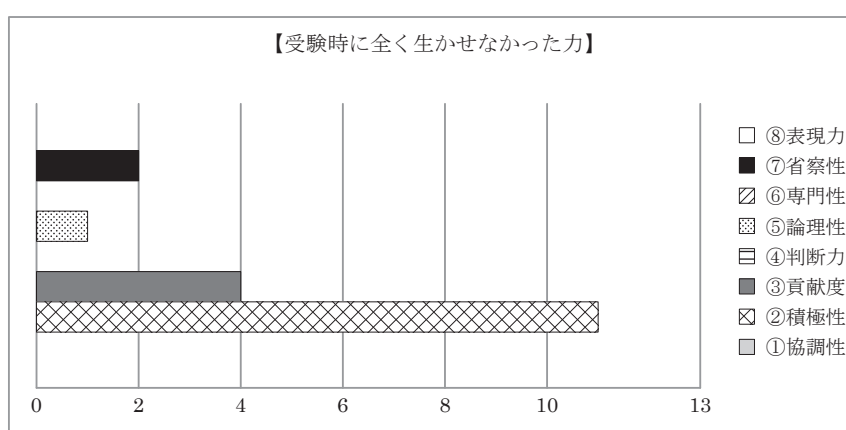
教員採用試験受験後の2014年11月初旬において、自己評価シートⅡ（A3サイズ1枚の質問紙）の記述による調査を行った。調査対象は、討論セミナー参加者13人（9日以上参加者、在学生のみ実施）である。

「2. 受験時に、本セミナーでの学びを生かしたかどうか、以下の8観点から自己評価してください（※観点の選択は、複数可）。」の最も生かした観点の結果をまとめると、グラフ4になる。前期セミナー終了時の結果（グラフ1）と同様、①協調性、⑧表現力が最も高い結果となった。協調性・表現力は、教員には欠かせない資質・能力であり、1年次から日常的に形成していく必要が改めて明らかになった。

- ・聞く姿勢や気配りなどは、セミナーでの練習成果が発揮できたと思います。急にできることではないので、練習して慣れておいてよかったと思いました。
- ・日頃から気を付けていたことだから。表現力だけは絶対に誰にも負けないようにしようと思っていたから。
- ・本番も落ち着いた態度で臨むことができたし、相手の目を見て話したり、うなずいたりしながら聞いたりすることができたから。



【グラフ4：受験時に最も生かされた力】



【グラフ5：受験時に全く生かせなかった力】

受験時に全く生かせなかった観点をまとめると、グラフ5になる。②積極性、③貢献度が最も高い結果となった。その理由には、次のような回答があった。15分から20分という短時間では、深まりのある討論にはなりにくいことが読み取れる。「(意見を)出し合う討論」という記述があるが、単に意見を出し合うことに終始すると集団面接と同じであろう。採用側の時間設定にも問題があるのではないだろうか。

- ・初めから討論の流れ（持って行き方）がよくなかったけど、軌道修正できなかった。
- ・司会・進行に関わる勇気がなかったから。自分が進め、20分間で中身のある討論にできる自信がなかったから。
- ・15分という短い時間で何度も発言することは難しく、司会もおらず、他者にコメントできるような深める討論ではなかった。出し合う討論であった。

「3. 受験をしてみて、改めて集団討論セミナーの方法への要望・評価等をしてください。」には、次のような要望があった。

- ・最初は、どのように進めていけばいいのか、またどのように進めるのが正解なのかもわからないまま、自分たちが合っているか不安のまま時間が過ぎていったので、自信を付けるためにも、初めの方で先輩の討論のビデオなどを見るといいかもしれません。
- ・各自治体に合わせた討論方法や内容を、隔週で回すとよい。各自治体で方法は違うし、討論に集まる人が受ける試験も違うし、様々な方法を経験して臨機応変さを身に付けることも必要だと思うから。
- ・何度も同じメンバーだと緊張感が持てず、“慣れ”が出てきてしまう。先生や場所、グループを変えて行う。

集団討論セミナーの方法に対する評価には、次の回答があった。

- ・教職と一般時事の問題という2つの観点で討論をしたのがよかったです。大分県は、昨年まで一般時事の問題でしたが、今年は「教育者として意見を述べよ」とあったので、両方の問題をしていてよかったと思いました。
- ・はじめ、いきなり討論をして「え!？」と思ったが、自分の課題や、知識のなさに気付くことができて本当によかったと思う。大変ではあったが、開講されてよかった。
- ・試験当日困ったことは、集団討論を初めて行うような進め方の人たちと一緒に討論をしたことである。よって、様々な人と討論をする機会を自分たちで作ることが大切だと考えた。また、多くの先生のアドバイスを聞いたことが、当日柔軟に対応できることに繋がったと考える。

「4. あなたから見て、本学の授業（講義・演習・実習）は前出の8観点についてどれだけ大切にしていると考えますか（※観点の選択は、複数可）。」の結果をグラフ6・7・8にまとめた。

筆者らをはじめとする本学の授業を振り返り、よりよいものにしていくための設問である。集団討論セミナーだけでなく、普段の授業においても8つの観点を意識して実践することが必要である。教員採用試験対策はもちろん、教師としての資質・能力の向上の点からも不可欠である。講義では、最も大切にしている観点としては⑥専門性、全く大切にしていない観点としては②積極性が挙げられた。演習では、最も大切にしている観点としては①強調性、全く大切にしていない観点としては④判断力が挙げられた。実習では、最も大切にしている観点としては⑧表現力、全く大切にしていない観点としては⑦省察性が挙げられた。教育実習（教育実習Ⅶ、教育実習Ⅱ・Ⅲ）では、現地実習の後、報告書を作成し、事後学修会や事後報告会に取り組んでおり、省察性を大切にしていると筆者らは考えているため、意外な結果となった。学生自身が自覚していないか、あるいは試験の中で発揮することができなかったのであろう。

「5. 設問4の理由、本学の授業への要望・評価等を具体的に書いてください。」には、次の回答があった。以下は、現状に対する肯定的な意見である。

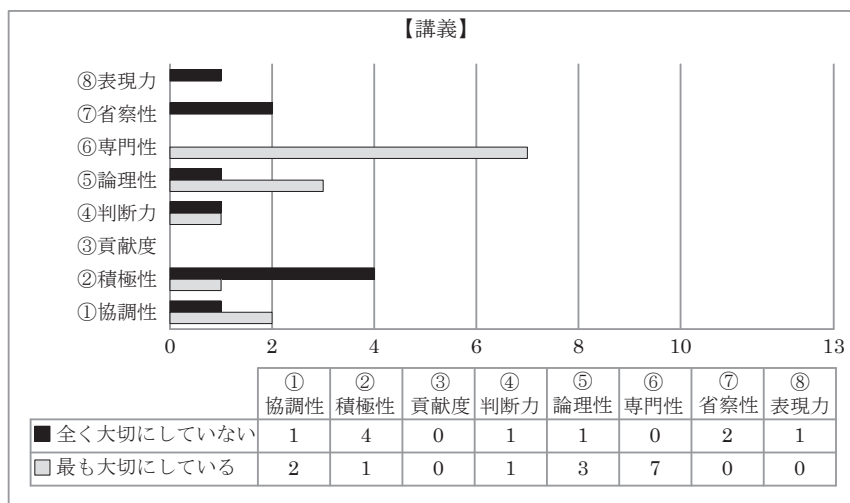
- ・大学は、自分の力で専門性や表現力を上げていくところなので、現状に問題はありません。難しいけれど、オフィスアワーのような質問に行ける時間がもっとあればと思います。
- ・集団討論（試験）についてだけではなく、個人面接、教育への思いについてもしっかり自分の考えを持つことができ、様々な場面へ活かすことのできる力が付いたように思う。しんどい時が一番多かったセミナーではあったが、参加することができてよかったと思う講座であった。
- ・私は「みんなで」何かをすることが苦手で……（今もですが）。この4年間、やれる範囲でやってきました。「みんなで」＝「1人では何もできない」だと思っていたのですが、「みんなと」だからできることもあるし、その可能性も広がるし……いろいろなことに気付かされました。弱さでは決してないし、集団での磨き合いも必要な力……なのですね。何事にも「連携」は大事だと思います。いろいろな人と出会いがありますが、逃げずに向き合いたいです。

批判的ではあるが、本学の授業に対する示唆に富んだ回答も見られた。これまでの4年間の学びをもとに、本学の授業を適切に評価していることがわかる。教育実習や教員採用試験での学びを通して、自身が授業者として実践を積み重ねて来た成果でもあろう。

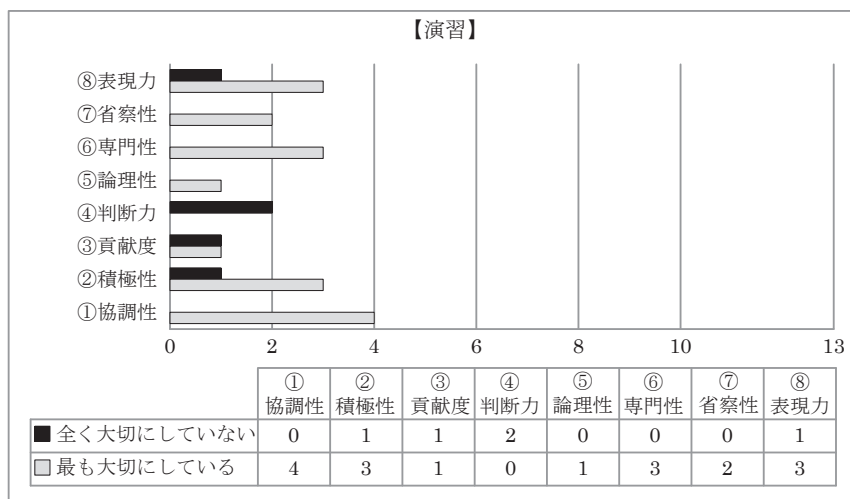
- ・「学生がそこにいる意味」のある授業が必要だと思う。例えば、学生の発言の場を増やすことや問題を解いていくことなどが考えられる。授業で寝る暇がないくらいの頭の回転をする授業がいるのでは……。もちろん、もう大人だから自主性はいるけれど、講義者からの働きかけがいると思う。
- ・全体的に1・2年の時は座学が多く、講義を受け身で聞くだけということが多かったように思います。人間関係がある程度できあがっている中で、あまり話したことのない人と討論をしたり、演習をしたりするというのは、少し厳しいと感じる人もいないのではないかと思います。積極性、協調性や表現力を育てるという点で見ると、もう少し早い段階から講義の中で、学生同士で討論をする

というような機会を設けてもらえたらと考えます。

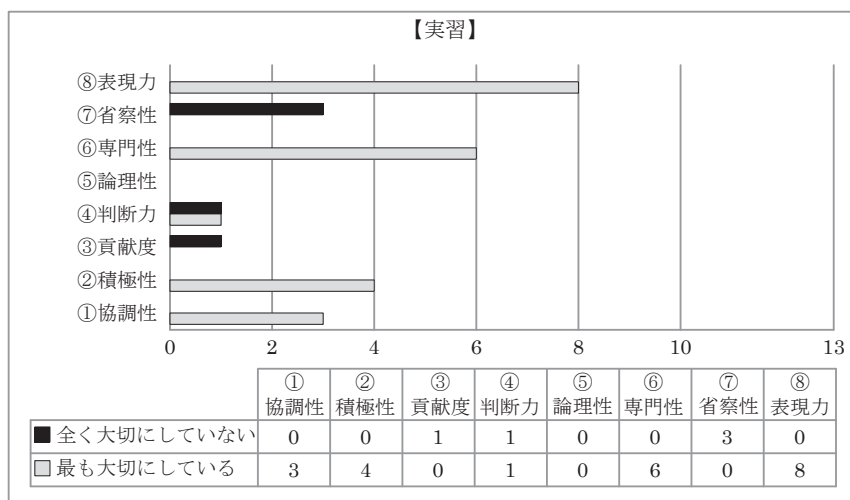
・座学は、学生にとっては楽でも力が付かない。互いに話し合う時間を取ることは重要だと考える。



【グラフ6：本学の授業への要望・評価（講義）】



【グラフ7：本学の授業への要望・評価（演習）】



【グラフ8：本学の授業への要望・評価（実習）】

(3) 平成26年度・集団討論セミナーの成果と課題

成果としては、①協調性、⑧表現力などを中心に、学生に一定の力量を形成することができ、受験時にも生かされたことが挙げられる。討論後の教員によるコメントも、学生の考えを深めるために役立った。

表1で示した通り、8月からは、小学校教員採用試験の二次・三次対策として集団討論セミナーを継続実施した。10月に入ると、公立保育士試験対策として初等教育学科・幼児教育コースの学生を対象とした集団討論を数回行った。10月実施の討論を通して、児童教育コースの学生と幼児教育コースの学生との交流が生まれた。参加者の中に、小学校教員採用試験受験後の児童教育コースの学生が入り、幼児教育コースの学生に対して示範・助言をする場面が見られた。交流そのものは収穫であったが、幼児教育コースの学生にはもっと早い段階から集団討論へ参加することが必要である。試験直前に数回体験しただけでは、集団討論に必要な力は一朝一夕には身に付かない。試験本番に耐え得ることも難しいであろう。

②積極性、③貢献度、⑤論理性の育成については、集団討論セミナーだけでは不十分であった。筆者ら教員には、日頃の授業においても②積極性、③貢献度、⑤論理性を育成する姿勢が必要であることが明らかになった。

集団討論セミナーの課題としては、前期セミナー後半（一次試験直前）に生じるマンネリの解消が挙げられる。受験後のコメントに見られたように、実際の教員採用試験では集団討論の練習・対策をあまりしていない他の受験者と討論をした学生も認められた。集団討論の経験の少ない参加者とも練習をすることで、様々なレディネスの参加者にも対応できるようにする必要がある。幼児教育コースの学生や、下学年の学生が参加することで、この2点を解消することが可能になるであろう。幼児教育コースの学生自身のためにも、前期セミナーへの参加が求められるところである。

受験自治体の教員採用試験の試験内容に集団討論がない学生にも、教師としての力量形成のために参加して欲しいところではある。既述のように、集団討論セミナーで取り組んだ問題についてもう一度調べ直し、討論での学びも踏まえて文章化しておく、筆記試験や小論文などの試験や、教員としての力量形成にも役立てることができる。採用試験対策という目先のことがらにとらわれるのではなく、将来に出会う子どもたちのために力を付けようという意識での参加を期待したい。

出題のアンバランスも、解消する必要がある。A.教職専門、B.教育時事、C.時事をバランスよく出題し、幅広い問題に対応できる力を付けなければならない。そのために、筆者らで連携を取り、出題計画を事前に立てる必要があるだろう。

集団討論に対する予備知識を与えない方法には、抵抗を感じている学生も認められた。回数を重ねる毎に参加者が減っていった1つの要因でもある。セミナー初回で前もって討論の進め方や評価の観点を学生に知らせたり、筆者らや先輩による示範を見せたりする方法もあるだろうが、それでは見本を踏襲する力しか育たないだろう。討論の進め方や評価の観点を学生自身に考えさせる方針を変えることは考えていないが、何らかの対策が必要であろう。例えば、セミナーのハードルを下げるといった消極的な対策ではなく、学生の意識・主体性を向上させるような働き掛けが求められる。短時間で討論を進める方法についても、今後回数を増やすなどの対策をしなくてはならない。前期セミナーでは愛媛県受験者、二次・三次対策セミナーでは大分県受験者が参加者の多くを占めていた。実際の教員採用試験では、愛媛県では討論時間が15～20分程度、大分県では構想10分・討論20分であった。

本学の授業についての課題としては、「授業で寝る暇がないくらいの頭の回転をする授業がいるのでは……。」「座学は、学生にとっては楽でも力が付かない。」という学生のコメントに象徴されるように、学生が受動的にならないための授業上の工夫と学生自身の意識変革が必要であろう。授業上の工夫とは、杉江修治が主張する「参加」「共同」「成就」である⁷⁾。集団討論による学びには、これらの要素がすべて含まれており、その有効性が証明されたと言えるだろう。教員による一方的な授業ではなく、学生の積極的参加と、学生間の相互作用を活性化させる必要がある。まずは、筆者らの授業実践を見直し、学生の主体的な学びをより促進させるような改善策を図っていきたい。(佐伯)

以上、学生対象の調査結果に基づいた成果と課題についての考察を行った。

2008年度までは、他の教員を主担当として、筆者らがそれをサポートする形で集団討論を行ってきた。2008年度までの集団討論の実践の特徴は、次のようなものであった。

- ① 二次対策セミナーにおいて、集中的に実施していた。
- ② A.教職専門の問題が、出題の多くを占めていた。
- ③ 1グループ10人前後のメンバーで討論を行っていた。
- ④ 教員による評価が主体であり、学生自身が評価する機会が少なかった。
- ⑤ 集団討論の評価の観点、取組の姿勢・態度中心の項目であった。

①については、本学において最も受験者が多い広島県・市の二次試験前の1～2週間、集中的に実施していた。当時は、午前が模擬授業、午後が集団討論という日程であった。現在、広島県・市の教員採用試験では、集団討論からグループワークに変更されている。②については、出題例として「子どもたち一人ひとりに確かな学力を育むためには、学校教育の中心である日々の授業をより質の高いものにしていくことが絶対条件である。授業力向上のための方途について討論せよ。」という教職専門に関するものが多くを占めていた。③については、1グループの人数が多かったのは、当時は二次対策を1会場のみで行っていたことにもよる。⑤については、当時の主担当による討論5ヵ条（1. 参加姿勢・態度で、1. 話す力・聴く力で、1. 問題解決の力で、1. 教師としての資質で、1. 表情・態度・姿勢で）というものがあつた。

筆者らによる集団討論セミナーは、上記の点を踏まえながら改善しつつ、2009年度（初等教育学科26期生）から実践を積み重ねてきている。筆者らの実践自体の蓄積はあつたのだが、今回改めてこれまでの取組を総括・整理し、考察することができた。集団討論の取組を一覧表にして集約したため、問題の流用も可能となった。今年度の成果と課題を受けるとともに、2008年度までの反省点と将来とを見据えて、次年度では以下の点を改善して実践したいと考えている。

- ① これまで手書きで提示していた討論の問題を、視認性と保存性の点からPowerPoint（Microsoft）を用いて作成し、プロジェクタか電子黒板で提示する。
- ② 教育についての不易・流行を踏まえ、A.教職専門、B.教育時事、C.時事の問題をバランスよく実施する。
- ③ 実践の蓄積をするために、今年度と同様に集団討論の記録を残し、一覧表にしてまとめておく。
- ④ これまで以上に、集団討論が受験科目にない自治体の受験者、幼児教育コースの学生、下学年の学生などの参加も積極的に募るようにする。

従来から、教員採用試験においては知識・学力面を判断する筆記試験だけでなく、体育・音楽・図画工作などといった実技試験も課されている。面接・論作文、模擬授業、集団討論などを通して、教員としての資質・能力についても選考の対象とされてきた。近年は、筆記試験のみでは判断できない側面がさらに重視され、広く人間性を問われるようになってきた。学校を取り巻く様々な問題が起こる現状において、臨機応変に対応する力が教員に求められている。いじめや不登校、保護者対応など、教員が組織として対応・解決すべき問題も増えている。それゆえ、人物評価をする上で、グループ内での動きがわかる集団討論の意義は大きい⁸⁾。今津孝次郎は、現在の学校が様々な困難な課題を抱えており、学校が組織として対応しなければ課題達成は見込まれないと言及している。教師を目指す学生が教職イメージを「個業」から「協業」へと転換するように大学教育は準備しておく必要があり、そのために例えば集団討論のコーディネートなどのチームワークを体験しておく必要があると述べている⁹⁾。集団討論セミナーでの学びは、例えば小学校教員になってからの教職員会議や、児童同士の話し合いに際した指導でも直接的に生きてくる¹⁰⁾。単なる教員採用試験対策だけではなく、学生・担

当者相互の教員としての資質・能力の向上のために、学生からの要望に応える形で今後も集団討論セミナーを継続していくことが必要である。(佐伯)

註、引用・参考文献

- 1) 佐伯育郎, 徳本達夫「教育実習指導の現状と課題(Ⅱ)～教育実習Ⅰを中心に～」, 徳本達夫, 佐伯育郎「教育実習指導の現状と課題(Ⅲ)～教育実習Ⅱ・Ⅲを中心に～」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2014年第2号』広島文教女子大学教職センター, 2014年所収) 本稿では, 大学教育での学びと教職課程教育での学び, わけても教育実習の事前・事中・事後指導の成果と課題について明らかにした。
- 2) 佐伯育郎, 徳本達夫「教育実習指導の現状と課題～教科専門(図画工作)・教職専門(教育史等)の観点から」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2013年創刊号』広島文教女子大学教職センター, 2013年所収) 本稿では, 筆者らそれぞれの専門科目担当者の立場から教育実習指導の現状と課題について言及した。
- 3) 平成26年度の集団討論セミナーでは, グローバルコミュニケーション学科, 人間栄養学科の4年生の参加も数名あった。人間栄養学科の卒業生も1人参加した。前期セミナー中に卒業生が参加することは, きわめて稀である。二次対策セミナーについては, 筆者ら以外の教員が実施したものもあるが, 表1には含まれていない。
- 4) 今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波書店 2012年。評価について今津は「そこで, 手段としての評価とは学習者の状況を知り, 学習目標を立てて達成具合を検討し, 学習上の課題を明らかにし, 新たな次の学習目標を立てていく一連の過程であること, そしてその過程では, テストだけでなく作文や観察などのさまざまな情報を用いて多様な評価方法が柔軟に使い分けられていく総合的な活動であること, を改めて確認したい。評価の目的とは, 以上の手段を踏まえながら学習者の成長発達をもたらすことである」(172ページ)と言及している。「評価を通じて評価者自身も啓発されるという意味で, 評価者と被評価者との関係は双方向である。」(174ページ)とも述べており, 筆者らもこの考えに立って学生の指導・支援に当たっている。集団討論セミナーで, 学生に受験側と評価側の双方を体験させるのは, この理由からである。
- 5) 苦野一徳『教育の力』講談社 2014年。苦野は, 「教育にナイーブに期待しすぎだといわれるかもしれませんが, わたしはそのような実践をこそ, より『よい』社会のために“教育にできること”といえるのではないかと考えています。わたしたちの社会には, 絶対的な正解のない, きわめて複雑な問題が山積しています。それゆえこれからの世代の若者たちにますます必要になってくるのは, それぞれの意見を考え合わせた上で, できるだけ皆が納得できる建設的な『第三のアイデア』を見出せる力です。『あちらかこちらか』で争うのでも, 『正しいことなんて何もない』で済ませるのでもなく, どうすれば相互に『共通理解』を得られる考えを見出し合っていけるかと考えること。そのような思考の力こそ, これからの教育が育むべき〈教養=力能〉といえるのではないかと, わたしはそう考えています。」(229ページ)と述べている。筆者らも, この考えに同意する。それゆえ, 集団討論の実践を継続している。
- 6) 本間啓二『2016年度版 面接ノート』一ツ橋書店 2014年。本書における集団討論に関する内容は全212ページ中7ページのみであり, 面接に関する記述がその大半を占めている。ただし, 145ページ以降に掲載されている都道府県別面接実施状況には, 過去に実施された試験内容として集団討論の過去問が自治体別に5～10題ずつ掲載されている。
- 7) 杉江修治・関田一彦・安永悟・三宅ほなみ編著『大学授業を活性化する方法』玉川大学出版部 2004年。杉江修治は, 学生の学びへの意欲を高める授業工夫のキーワードとして, 「参加」「共同」「成就」の3つを挙げている(10～15ページ)。「参加」には, 「体の参加」「頭の参加」「相互作用への参加」があり, それらはすべて集団討論にも通じるものである。「相互作用への参加」とは, 学生相互, 学生と教師の間の質疑, 学び合いの機会を設けることであり, 筆者らが担当する授業においても, 「相互作用への参加」を促す取組を導入していきたいと考える。
- 8) 教員採用試験情報研究会『教員採用 面接試験の答え方』一ツ橋書店 2014年。本書では, 集団討論について「この方法は, 集団面接よりも集団内における個々の動きが観察でき, 受験者の人物の社会的側面を評価するには効果的である。」(11ページ)と述べている。しかし, 本書においても集団討論に関する記述は全228ページ中1ページのみである。ただし, 197ページ以降に掲載されている面接資料編には, 過去に実施された試験内容として集団討論の過去問が掲載されている。
- 9) 前掲書2) 91～92ページ。今津は, 「協業」への態度と能力の形成を図るために, ロールプレイやディベート, 集団討論のコーディネート, プロジェクトメソッドなどの参加型学習が有効であると述べている。
- 10) 教育実習研究会編『小学校教育実習ノート』協同出版 2001年。本書では, 教員の会合として「学校は校長を中心に多数の教職員で構成される社会です。教育目標の実現を目指し, 充実した教育課程を実施するためには, 一人一人が, その職務に対して, 積極的意欲を持つための共通理解を進め, 実行のための連携や協力が必要です。」と強調している。集団討論セミナーでの学びは, 専門性を踏まえつつ, その基準となる力を養うことができると筆者らは考える。

付録：資料 集団面接・集団討論2009出題（案）一覧表

徳本達夫

本2009年度より、集団討論セミナーの主担当となった。直前に提示する方式のほか、複数の主題を事前に掲示することによって、積極的な関わりを求めた。ただし、実施しなかった出題もある。なお、本年度は集団面接と集団討論とを対として実施した。

集団面接・集団討論2009（1）090414

①数多くある職業の中で、あなたがあえて教職を目指すのはなぜか。どのような契機からか。3分間で述べなさい。②10年に及ぶ「ゆとり教育」の方針がこの度、転換されることとなった。転換の理由と背景を踏まえ、転換後の教育現場において、どのような点に留意した教育が求められるか、集団で討議しなさい。司会進行等は、受験生において協議しなさい。時間は30分。（下線部は以下、共通。）

集団面接・集団討論2009（2）090421

③あなたがこれまで出会った子どもの中で、最も影響を受けたのはどのような子どもであったか。また、どのような点で最も影響を受けたか。その影響は現在、どのように活かされているか。④2007年度より特別支援教育制度が始まった。この制度は従来の障害児教育とどんな点がどう異なるのか。また、通常学校・通常学級の教員として、この制度をどのように捉えて実践していくべきか。

集団面接・集団討論2009（3）090428

⑤短所は長所という。あなたがこれまで自分では短所だと思っていた自分の性格が長所でもあるということに気づいた経験について述べなさい。⑥「分かりやすい授業」が大事だといわれる。「分かりやすい授業」とはどのような授業か。なぜ大事なのか。あなたが教育実習で行った授業を振り返りながら将来の学級担任として、どのように実践していくべきか。

集団面接・集団討論2009（○）090505---これは幻の出題。語り合ってみる価値はあると思う。

⑦教員にならないとしたら、どんな職に就くか。理由は何か。⑧優れた教員とはどのような教員か。それをどのようにして見分けるか、あるいは選べばよいか。

集団面接・集団討論2009（4）090512

⑨あなたがこれまで集団生活で身につけたことは何か。あなたの経験に即して述べなさい。⑩学校は地域や保護者との連携が必要になるが、昨今、「クレーマー」といわれる保護者の存在が話題になっている。どんな点が「クレーマー」といわれるのか。また、学校と保護者との連携の観点からそのような保護者に対してどのように対応していくべきか。学級担任として述べなさい。

集団面接・集団討論2009（5）090519

⑪あなたがこれまで他者から支えてもらった経験のうち、最も印象に残っているものについて、理由も含めて述べなさい。⑫東京都のある区では、煙草のポイ捨てに頭を悩ました結果、ポイ捨て禁止条例を制定、違反者には罰則を課すこととした。「マナーからルールへ」が評語である。ところが、監視が行き届かないところでは相変わらず違反があったため、「マナーからルールへ。そしてマナーへ」と、評語を変えた。この事例を参考に、なぜ、このような事態が起きるのか。どうすれば問題が解決できるか。大人の一人として討論しなさい。

集団面接・集団討論2009（6）090602（0526はスポーツデー

のため中止）

⑬新任最初の児童に対する挨拶を自己紹介を兼ねて、学級経営の観点を中心に述べなさい。⑭学校は社会性を育む場でもある。公共性が失われつつあるといわれる今日、学校教育、とりわけ学級の中でできることは何か。学級担任として論じなさい。

集団面接・集団討論2009（7）090609

⑮学級開きをする際に、担任児童に強調したいことを、あなたがぶつかった壁とそれを克服しようとした経験に即して述べなさい。⑯食育が重視される中、家庭の事情で朝食を食べずに登校する児童が増えているという。学級にそのような児童がいた場合、学級担任としてどう対応するか。それはなぜか。

集団面接・集団討論2009（8）090616（観察実習関係のため、いつもの3名は不在ですが、学生諸姉のほうで取り組んでみて下さい。）

⑰あなたが取り組んでいる卒業研究について、その研究の内容と絡めて、研究することの醍醐味を児童に伝えなさい。児童は実習先の配属学年を想定しなさい。⑱算数科を主として習熟度別の授業形態がとられている学校がある。習熟度別の授業形態が実施されている背景、意義および配慮すべき点などについて学級担任としての立場から討論しなさい。

集団面接・集団討論2009（9）090623

⑲小学校で外国語活動が必修になる。学級担任として、どのような対応が可能か。⑳学校教育の中で日本の伝統を児童に伝える取り組みが重視されてきている。この背景を踏まえたうえで、学級担任として、どのような取り組みをしたいか。具体的に討論しなさい。

集団面接・集団討論2009（10）090630

㉑あなたが憧れた人について、どのような点で憧れたか。自分の中にどのように取り入れているか、述べなさい。㉒改正教育基本法において、学校と家庭、地域住民との連携協力が求められている。具体的に家庭や地域住民との連携、支援をどのように作り出していくか。学級担任として、論じなさい。

集団面接・集団討論2009（11）090707

㉓新任の教員として、赴任先の教職員と意見が違った場合には、どうするか。述べなさい。㉔路上生活をする人々を襲撃する中学生がいる。なぜこのような事件が起きるのか。対策は何か。小学生の学級担任のひとりとしてどう対応するか。

集団面接・集団討論2009（11）090707

㉕「携帯電話がないと友達になれないから、携帯電話を持たせて」と小学5年生の子どもがせがむ、と保護者が教員に相談に来た。小学5年生を担任するものとして、どう応えるか。役割演技しなさい。保護者役は、試験官が役割演技します。㉖「授業」、「教師」、「教える」という言葉が持つイメージについて、学生は「伝達する場」「伝達すること」、「伝達者」と捉える。他方、現職の教員は、「共同で追及する・創造する場」、「共同で追及する・創造すること」、「（学習の）支援者」と捉える。この認識の差はどこから生まれるか。また、新任の教員として、授業実践において何を重視しようと思うか。集団面接・集団討論2009（12）090714（実施するかどうかは、0707参加者と協議します。）

㉗あなたが実習先で出会った子どもの中にあなたにとって「苦手だ」と感じた子どもはいたか。いたとしたら、どう対応したか。いなかった場合は、「いなかった」とする理由を

述べなさい。㉘教職員の長期休職者のうち、精神疾患によるものが6割を超えるという現状がある。このような現状はなぜ起こるのか。また、こうした現状を克服するための対策について、教職を目指すものとして討論しなさい。

集団面接・集団討論2009（13）

㉙採用試験のほぼ1週間前のことを振り返って、そのころあなたが支えていたものは何だったか。㉚「貧困」が原因で病院に行くことができず、学校の保健室で簡単な治療を受ける児童が増加中であるという。こうした事態に対して学級担任のひとりとしてどう対応するか。

集団面接・集団討論2009（14）

㉛「明日のエコでは間に合わない。」ある評語である。環境教育は今日、大事な教育の課題のひとつである。学級担任のひとりとして実際にどのような取組みができるか。具体例を基に話し合いなさい。

集団面接・集団討論2009（15）090713

㉜あなたはこれまで集団のなかでことを進めるときに、他の人と意見が異なった時にどう対応しましたか。対処の仕方が上手いかなかった場合には、その後どのような対応をとりましたか。

註1：事前学習は必要だが、事前学習した成果物については

試験当日は持ち込み不可のはず。メモ類はなしで取り組んでいくほうが力がつく。以後は、手ぶらという方針で臨みたい。註2：毎回の主題について、集団等論後は特に、文字化しておくとともに力がつく。空きコマを利用して、文字化してきたものを相互に検討すれば、いっそうの力がつく。取り組まれない。

註3：時間を計る方式は次回からも続行する予定。第2回目の欠席者にはその旨伝えられたい。

註4：学内で実施している業者テストは自宅受験に比べ、3000円～1500円オトクです。全ての試験に参加する必要はないが、自分の力を確認する一つの機会にはなる。言わずもがなのことながら。詳細は掲示をご覧ください。

註5：大学推薦の自治体がいくつか。応募についての遠慮は不要。一定以上の力があることは、衆目の一致するところ。生かせる機会は活用しよう。

註：次回（0707）は、以下の題目でやります。10年間にわたって講師（臨時講師）を勤めている受験生（男性）、同じく5年目の受験生（男性）も参加される予定です。実際の受験でも、長年講師を勤められた受験生も参加されます。経験の違いは圧倒的なはず。気後れしない様に、また、そうした年長者から学ぶ謙虚な姿勢を持って臨むことが肝要です。（以上）